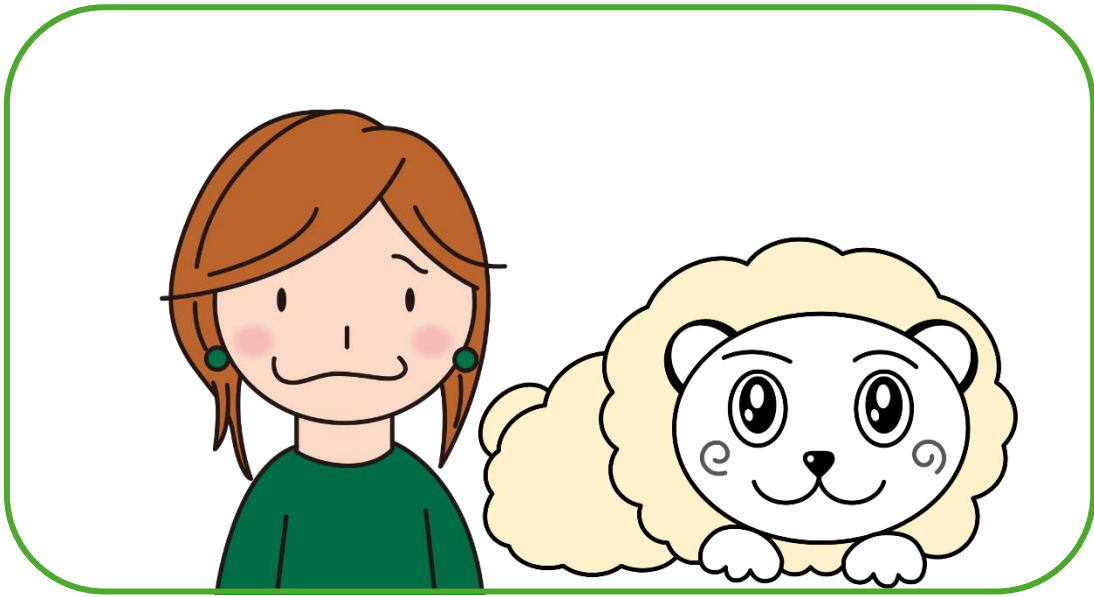


書籍【Laravel の教科書】

Laravel11 対応サポートガイド



Version 1.2

作成日：2024年4月15日

内容

はじめに	3
プロジェクト作成時にマイグレーションを行う	5
タイムゾーンと言語設定の登録場所の変更.....	7
Laravel のディレクトリ（フォルダ）構造の変更.....	9
Laravel11 の app ディレクトリ	10
Laravel11 の bootstrap ディレクトリ	11
Middleware（ミドルウェア）はデフォルトで非表示に.....	12
Middleware（ミドルウェア）の登録場所の変更	13
Gate（ゲート）の登録場所の変更	15
ホームの登録場所の変更.....	17
その他の変更事項.....	18



はじめに

書籍では Laravel10 の使い方をご紹介していますが、Laravel は 2024 年 3 月 12 日にバージョンアップし Laravel11 がリリースされました。

基本的な使い方には変わりはありませんが、**Laravel11 ではファイル数が大幅に減り、各種登録場所が変わっています**。本ファイルは、Laravel11 を使って書籍にあるコードを実行した際に、変更する必要がある部分について解説します。

～★～☆彡～★～☆彡～★～☆彡～★～☆彡～★～☆彡～★～☆彡～★～☆彡～



「Laravel11 では、ファイル数がかなり減ったんだね。
なんで？」



「ファイル数を減らすことで、分かりやすい構造にしたかったみたいだよ。」



「なるほど。それは良いことだね。ただ、一気にファイルが減ると、色々影響がありそう。」



「うん。正直あるよ。ここから先、Laravel11 になったことで、どんな変更があるか解説していくね。」

Laravel11 の変更点について詳しく知りたい場合は、下記ブログ記事も参考にしてく

ださい。

<https://biz.addisteria.com/laravel11/>

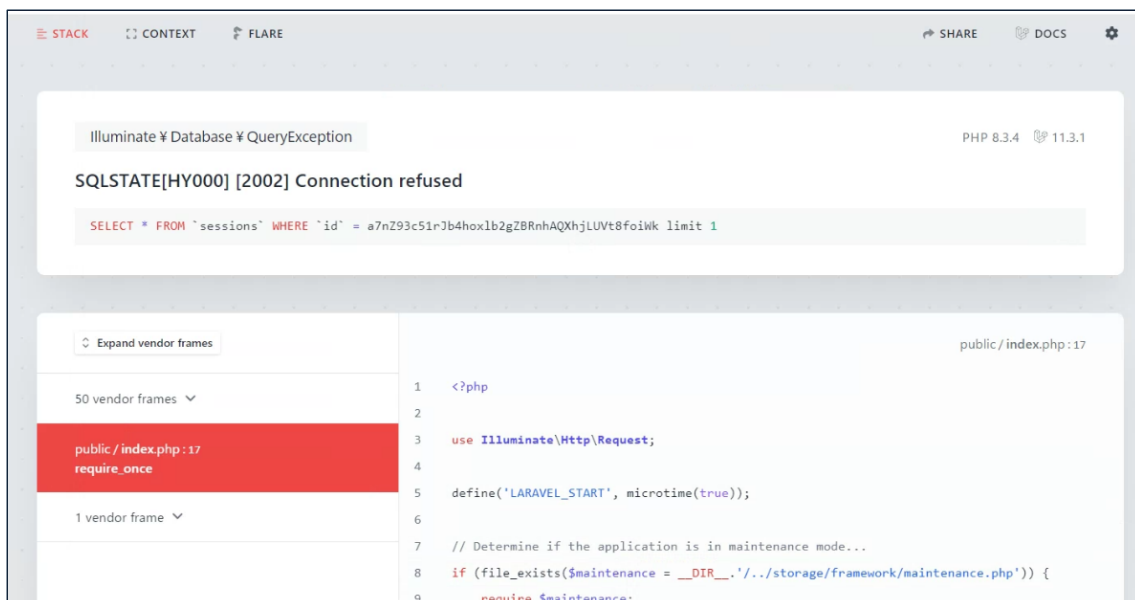
プロジェクト作成時にマイグレーションを実施

- 該当する章：2-4 プロジェクトの新規作成
- 該当ページ： p 58 [Laravel Sailを起動する]

Laravel11 では、デフォルトのデータベース管理システムが SQLite になりました。ですが、これまで通り、その他のデータベース管理システムの使用も可能です。

書籍では Laravel Sail を使ってプロジェクトを作成しますが、Laravel Sail の場合には、デフォルトのデータベース管理システムはこれまで通り MySQL となります。特に設定を変えなくても大丈夫ですが、**プロジェクト作成時に、データベースのマイグレーションが必要となりました。**この処理を行わないと、下記のようなエラー画面が表示される可能性があります。

す。



```
Illuminate Database QueryException PHP 8.3.4 11.3.1  
SQLSTATE[HY000] [2002] Connection refused  
SELECT * FROM `sessions` WHERE `id` = a7nZ93c51rJb4hox1b2gZ8RnhAQXhjLUVt8foiWk limit 1
```

```
Expand vendor frames  
50 vendor frames  
public / index.php :17  
require_once  
1 vendor frame
```

```
1 <?php  
2  
3 use Illuminate\Http\Request;  
4  
5 define('LARAVEL_START', microtime(true));  
6  
7 // Determine if the application is in maintenance mode...  
8 if (file_exists($maintenance = __DIR__.'/../storage/framework/maintenance.php')) {  
9     require $maintenance;
```

変更後の手順を解説します。

プロジェクトを作成後、書籍 58 ページで、プロジェクトを起動する手順を説明しています。

この時、書籍のように `sail up` ではなく、`sail up -d` コマンドを使用してください。これにより、プロジェクト起動後も、コマンドを入力できる状態になります。

```
sail up -d
```

起動後、下記コマンドを実行してデータのマイグレーションを実行します。

```
sail artisan migrate
```

これにより、プロジェクトで定義されたデータベーススキーマに基づいて必要なテーブルを作成または更新できます。マイグレーションについては、書籍の 172 ページ以降で解説しています。

この後は、書籍と同様の手順でブラウザにプロジェクトを表示してください。

タイムゾーンと言語設定の登録場所の変更

- 該当する章：2-8 設定とメッセージの日本語化
- 該当ページ： p 96～97

Laravel10 までは、タイムゾーンや言語の設定は、config/app.php ファイルに行っていました。**Laravel11 では、.env ファイルにて、タイムゾーンや言語の設定を行います。**

.env ファイルを開き、下記のように変更してください。

【.env】Laravel11

※赤文字部分が変更箇所です

```
APP_TIMEZONE=Asia/Tokyo
APP_URL=http://localhost

APP_LOCALE=ja
APP_FALLBACK_LOCALE=en
APP_FAKER_LOCALE=ja_JP
```

Laravel11 では、config/app.php ファイルにおいて、次のようにタイムゾーンが設定されています。

【config/app.php】Laravel11

```
'timezone' => env('APP_TIMEZONE', 'UTC'),
```

これは、「.env の'APP_TIMEZONE'に設定があれば、そちらを採用する、なければ、'en'とする」といった意味です。この設定により、.env ファイルにある設定が優先されます。言語設定も同じ方法で設定されています。

なお書籍でご紹介したとおり、**config/app.php** ファイルに下記のようにコードをいれても動作します。この場合は .env ファイルのタイムゾーン設定は使用されず、config/app.php のタイムゾーン設定が有効となります。

【config/app.php】Laravel10

```
'timezone' => 'Asia/Tokyo',
```

～★～☆≡～★～☆≡～★～☆≡～★～☆≡～★～☆≡～★～☆≡～★～☆≡～



「つまり以前の方法でも動作するんだね。」



「うん。Laravel は柔軟にできているんだ。」



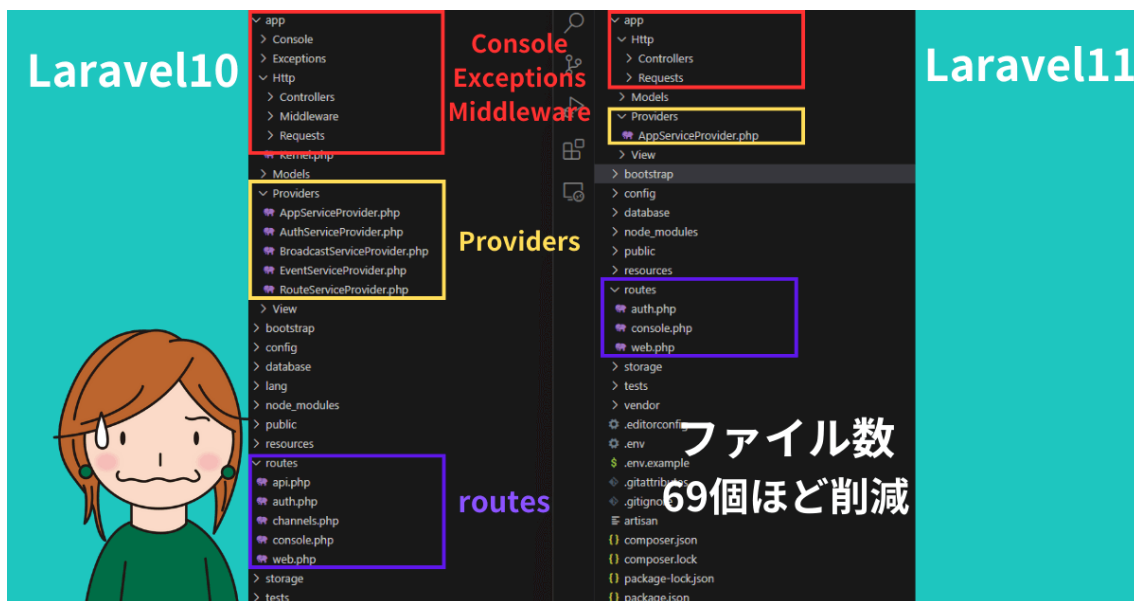
「よかった。でも、以前の方法では無理なことも、たくさんあるでしょ？」



「いや、そんなに多くないから安心して！分かりやすく説明するために、次に構造の変更を見ていくね。」

Laravel のディレクトリ（フォルダ）構造の変更

- 該当する章：3-2 Laravelのディレクトリ（フォルダ）構造
- 該当ページ： p 123~125



Laravel11 では、Laravel10 と比べて大幅にファイル数が減りました。減ったファイル数は、およそ 69 個ほど。そのため、書籍の 123 ページからご説明しているディレクトリ構造にも変更点があります。大きく変わったのは、**app** ディレクトリと **bootstrap** ディレクトリです。書籍の 124 ページから 125 ページに説明があります。この部分について、変更点をお伝えします。

Laravel11 の app ディレクトリ

Laravel11では、appには、次のディレクトリが入っています。

Http

Models

Providers

View

なおLaravel10以前では、MiddlewareもHttpの直下に入っていましたが、Laravel11
では、デフォルトではMiddlewareは表示されなくなりました。

appディレクトリ内のディレクトリをひとつずつ説明します。

▶ Http

Httpは非常によく使う部分です。デフォルトでは、次のディレクトリが入っています。

Controllers

Requests

Controllersには、コントローラファイルが入ります。

▶ Models

Modelsには、モデルファイルが入ります。

▶ Providers

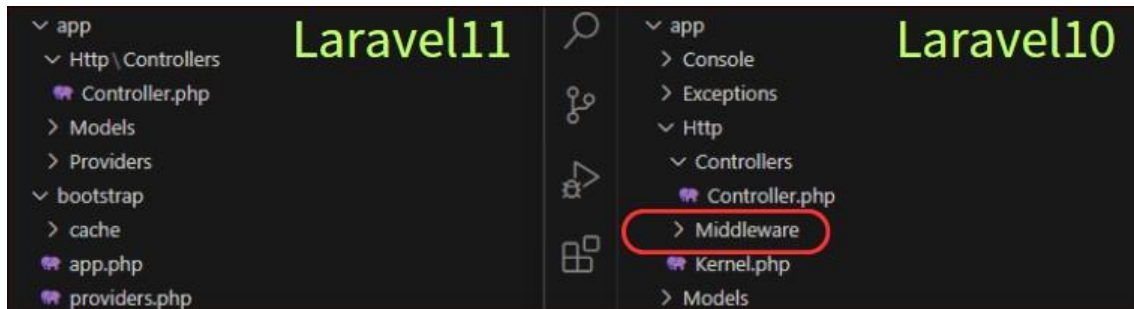
Providersには、Laravel起動時の処理を設定します。最初から使用する必要はありませんが、Webアプリを開発する中で、編集する機会が出てくるでしょう。なおLaravel10ではProvidersの中にはデフォルトで5個のファイルが入っていましたが、**Laravel11では、AppServiceProvider.phpファイルしか入っていません。**

Laravel11 の bootstrap ディレクトリ

bootstrapには、フレームワークの起動時の処理を行うapp.phpファイルが入っています。以前はこのファイルを操作する機会は、ほとんどありませんでした。**ですが**
Laravel11からは、このapp.phpファイルにミドルウェアなどを登録します。

Middleware（ミドルウェア）はデフォルトで非表示に

- 該当する章：8-1 ミドルウェアって何？
- 該当ページ： p 239～240



これまでapp/Http/Middlewareには、デフォルトで9個のミドルウェアファイルがありました。Laravel11では、フォルダごと、ごっそりMiddleware(ミドルウェア) が消えています。さらに、Middlewareを登録するためのapp/Http/Kernel.phpも消えています。

ただミドルウェアファイルは、単に表示されていないだけで vendor ディレクトリの中に入っています。そのため、これまでどおり使えます。vendor ディレクトリについては、書籍の 259-260 ページを参照してください。

また、Laravel11でのMiddlewareの登録場所は次ページでご紹介します。

Middleware（ミドルウェア）の登録場所の変更

- 該当する章：8-2 ミドルウェアで管理者のみがアクセス可能にする
- 該当ページ： p246

Laravel10 では作成した Middleware は app/Http/Kernel.php に登録しますが、

Laravel11 では bootstrap/app.php に登録します。Laravel11 ご利用の際は、書籍内で

作成する RoleMiddleware は、下記のように bootstrap/app.php 内に登録してくださ

い。

【bootstrap/app.php】

```
<?php

use Illuminate\Foundation\Application;
use Illuminate\Foundation\Configuration\Exceptions;
use Illuminate\Foundation\Configuration\Middleware;

// 追加
use App\Http\Middleware\RoleMiddleware;

return Application::configure(basePath: dirname(__DIR__))
    ->withRouting(
        web: __DIR__.'/../routes/web.php',
        commands: __DIR__.'/../routes/console.php',
        health: '/up',
    )
    ->withMiddleware(function (Middleware $middleware) {
        // 追加
        $middleware->alias([
            'admin' => RoleMiddleware::class
        ]);
    });
```

```
    });  
  })  
  ->withExceptions(function (Exceptions $exceptions) {  
    //  
  })->create();  
  inate¥Support¥ServiceProvider;
```

Gate (ゲート) の登録場所の変更

- 該当する章：8-3 Gate (ゲート) を使った動作や表示の制限
- 該当ページ： p 251～252

Laravel10では、Gate (ゲート) は、app/Providers/AuthServiceProvider.phpに登録しました。ですがLaravel11では、AuthServiceProvider.php はなくなっています。

Laravel11では、Gateはapp/Providers/AppServiceProvider.phpに登録します。

書籍ではAuthServiceProvider.phpにGateを登録するよう記述していますが、Laravel11ご利用の際は、下記のように、AppServiceProvider.phpにGateを記述してください。なお記述するコード自体に変更はありません。

【AppServiceProvider.php】

```
<?php

namespace App\Providers;

use Illuminate\Support\ServiceProvider;
// 追加
use Illuminate\Support\Facades\Gate;
use App\Models\User;

class AppServiceProvider extends ServiceProvider
{
    /**
     * Register any application services.
     */
    public function register(): void
```

```
{  
    //  
}  
  
/**  
 * Bootstrap any application services.  
 */  
public function boot(): void  
{  
    // 追加  
    Gate::define('test', function (User $user) {  
        if($user->id === 1) {  
            return true;  
        }  
        return false;  
    });  
}  
}
```


ホームの登録場所の変更

- 該当する章：10-4 メニューとロゴをカスタマイズ
- 該当ページ： p 313

デフォルトでは、ログイン直後はダッシュボード (/dashboard) が表示されます。書籍では、この部分を変更し、投稿の一覧ページ (/post) が表示されるようにしました。

ただ、この部分でも変更が必要です。Laravel10 では、ログイン直後に表示されるページを変更するために、app/Providers/RouteServiceProvider.php のコードを変更しました。で

すが、Laravel11 では、このファイルがなくなっています。そのため、同じ動作をするには

下記のように、routes/web.php ファイル内のダッシュボードのルート設定を変える必要があります。

【web.php】

```
// 無効にする
// Route::get('/dashboard', function () {
//     return view('dashboard');
// })->middleware(['auth', 'verified'])->name('dashboard');
// 追加
Route::get('/dashboard', [PostController::class, 'index'])->middleware(['auth'])->name('dashboard');
```

※この変更により、URL は/dashboard のまま、画面には投稿一覧が表示されるようになります。

その他の変更事項

ほか、重要度は低いものの、書籍に記した説明と、Laravel11版との相違を下記の表にしました。

ページ	該当箇所	修正前	修正後
92	マイグレートでデータベースにテーブルを作成する		現在は Breeze インストール後にマイグレートが実行済みなので、本操作は不要です。ただ、実施しても特に問題はありません。
166	Laravel と連携できるデータベース	MariaDB10.3 以上 (バージョンポリシー) MySQL5.7 以上 (バージョンポリシー) PostgreSQL10.0 以上 (バージョンポリシー) SQLite3.8.8 以上 SQL Server2017 以上 (バージョンポリシー)	MariaDB10.3 以上 (バージョンポリシー) MySQL5.7 以上 (バージョンポリシー) PostgreSQL10.0 以上 (バージョンポリシー) SQLite3.35.0 以上 SQL Server2017 以上 (バージョンポリシー)